



## 平成24年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)

平成23年8月9日

上場会社名 株式会社 ケアネット  
コード番号 2150 URL <http://www.carennet.co.jp/>

上場取引所 東

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 大野 元泰  
問合せ先責任者 (役職名) 管理本部財務部長 (氏名) 角谷 芳広

TEL 03-5214-5800

四半期報告書提出予定日 平成23年8月12日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

### 1. 平成24年3月期第1四半期の業績(平成23年4月1日～平成23年6月30日)

#### (1) 経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
24年3月期第1四半期	349	△15.5	△98	—	△99	—	△100	—
23年3月期第1四半期	413	△21.8	△64	—	△63	—	△103	—

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
24年3月期第1四半期	△1,932.40	—
23年3月期第1四半期	△1,977.12	—

#### (2) 財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%
24年3月期第1四半期	1,681	—	1,424	—	—	84.5
23年3月期	1,823	—	1,524	—	—	83.4

(参考) 自己資本 24年3月期第1四半期 1,420百万円 23年3月期 1,521百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
23年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00
24年3月期	—	—	—	—	—
24年3月期(予想)	—	0.00	—	65.00	65.00

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

### 3. 平成24年3月期の業績予想(平成23年4月1日～平成24年3月31日)

(%表示は、通期は対前期、第2四半期(累計)は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	932	16.0	△77	—	△77	—	△79	—	△1,529.06
通期	2,146	31.7	15	—	15	—	10	—	205.37

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

#### 4. その他

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

24年3月期1Q	52,420 株	23年3月期	52,420 株
----------	----------	--------	----------

② 期末自己株式数

24年3月期1Q	419 株	23年3月期	419 株
----------	-------	--------	-------

③ 期中平均株式数(四半期累計)

24年3月期1Q	52,001 株	23年3月期1Q	52,420 株
----------	----------	----------	----------

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期報告書のレビュー手続が実施中です。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、作成日現在において入手可能な情報に基づいて算定しております。今後の経済状況等の変化により、実際の業績は異なる結果となる可能性があります。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する定性的情報 .....	2
(2) 財政状態に関する定性的情報 .....	3
(3) 業績予想に関する定性的情報 .....	6
2. 四半期財務諸表 .....	7
(1) 四半期貸借対照表 .....	7
(2) 四半期損益計算書 .....	8
第1四半期累計期間 .....	8
(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書 .....	9
(4) 継続企業の前提に関する注記 .....	10
(5) セグメント情報等 .....	10
(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記 .....	11
3. 補足情報 .....	11
注記事項 .....	11

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

## (1) 経営成績に関する定性的情報

当第1四半期累計期間におけるわが国経済は、東日本大震災による甚大な被害に加え、電力供給の制約などの影響を受け、経済活動は停滞し企業収益は悪化傾向となりました。さらに、長引く円高や依然続く雇用情勢の厳しさなどもあり、景気の先行きは引き続き不透明感が残る状況で推移いたしました。

医療業界においては、平成22年度の診療報酬改定により、報酬配分の見直しが行われたことから、開業医と勤務医の報酬格差の是正が期待されています。しかしながら、医師不足や医師の過重労働の問題は未だ解決がされておらず、そのようななかでも医師は医療の質の向上が求められ、依然、多忙を極めております。

このような状況のもと、患者に質の高い医療を提供し続けるためには、医師が日頃から医療情報の収集や学習を欠かさないことが重要であり、限られた時間のなかで効率よく習得できるコンテンツサービスは、依然高いニーズがあります。

一方、製薬業界においては、薬価マイナス改定やジェネリック医薬品の使用促進などの医療費抑制策が推し進められるなか、市場を牽引してきた大型薬剤は順次特許切れを迎えているため、国内外の製薬企業の収益環境は厳しい状況にあります。そのため、製薬企業においては、新薬の研究開発や、営業・マーケティング活動における生産性向上が重要視されており、経費が削減されるなかで、より生産性の向上に資する厳選されたサービスは、依然高いニーズがあります。

このような背景のなか、当社は、特に製薬企業が抱える営業・情報提供活動の課題解決を事業機会と捉え、積極的に対応しております。特に、がんや精神・中枢神経系等のスペシャリティ領域での新薬開発が増えているなか、多くの専門医に薬剤情報の提供を可能とするために、専門医を中心に医師会員を増やしております。また、当社の中長期の成長に向け、当社のサービスの源泉となる「ケアネット・ドットコム (CareNet.com)」への継続的な投資も行っております。

これらの活動を行うなか、当第1四半期累計期間においては、売上高は349百万円（前年同四半期比15.5%減）と低調に推移し、売上総利益は202百万円（前年同四半期比8.4%減）、営業損失は98百万円（前年同四半期は営業損失64百万円）、経常損失は99百万円（前年同四半期は経常損失63百万円）となり、四半期純損失は100百万円（前年同四半期は四半期純損失103百万円）となりました。

セグメントごとの業績は、次のとおりであります。

## ① 医薬営業支援サービス

当サービスにおいては、「eディテリング<sup>®</sup>」の実施件数は12件（前年同四半期は12件）、売上高は143百万円（前年同四半期比28.0%減）となりました。また、当期よりサービスを開始した「MRPlus<sup>®</sup>」の売上高は58百万円、「スポンサードWebコンテンツ制作」の売上高は34百万円（前年同四半期比18.5%増）となりました。

この結果、医薬営業支援サービスの売上高は240百万円（前年同四半期比2.5%減）となりました。

## ② マーケティング調査サービス

当サービスにおいては、「eリサーチ<sup>™</sup>」の実施件数が20件（前年同四半期は19件）となりました。

この結果、売上高は53百万円（前年同四半期比22.6%減）となりました。

## ③ 医療コンテンツサービス

当サービスにおいては、医師向け教育コンテンツ「ケアネットDVD」の売上高は43百万円（前年同四半期比15.1%減）、当期よりサービスを開始したインターネットによる動画配信サービス「CareNetオンデマンド」の売上高は12百万円となり、医療コンテンツサービスの売上高は55百万円（前年同四半期比43.4%減）となりました。なお、医師向け教育番組「ケアネットTV・メディカルCh.<sup>®</sup>」は、平成23年4月から、インターネットによる動画配信サービス「CareNetオンデマンド」に移行しております。

また、医師・医療従事者向け医療専門サイト「ケアネット・ドットコム (CareNet.com)」においては、医師会員獲得および維持を目的に、前期に引き続き積極的に投資を行っております。これにより、当第1四半期累計期間末の医師会員数は10万1千人（前年同四半期は9万6千人）となりました。

## (2) 財政状態に関する定性的情報

文中における将来に関する事項は、当四半期累計期間の末日現在において入手し得る情報に基づいて当社が判断したものであります。なお、今後の予測しえない経済状況の変化等様々な要因があるため、その結果について当社が保証するものではありません。

## ① 経営成績および財政状態を分析する上での視点

当社は、主として、次の3つの視点から経営成績および財務状態を分析しております。

- a. 成長性の視点：当社の中心的なサービス「eディテリング<sup>®</sup>」および「MR P l u s<sup>®</sup>」の成長性
- b. 収益性の視点：売上総利益率、および 営業利益率等の改善状況
- c. 健全性の視点：流動性を初めとする財務基盤や資金調達能力に資する要因

## ② 成長性

当社は、医師会員の協力を得ることにより、製薬企業向けに「医薬営業支援サービス」および「マーケティング調査サービス」を提供し、一方 医師会員の獲得を目的に医師に向けて「医療コンテンツサービス」の提供を行っております。これらサービス別の売上高と売上構成比の推移の状況は、次のとおりであります。

回次	第13期		第14期		第15期		第16期		第16期 第1四半期 累計期間		第17期 第1四半期 累計期間	
	平成20年3月		平成21年3月		平成22年3月		平成23年3月		平成22年6月		平成23年6月	
決算年月	売上高 (百万円)	構成比 (%)	売上高 (百万円)	構成比 (%)	売上高 (百万円)	構成比 (%)	売上高 (百万円)	構成比 (%)	売上高 (百万円)	構成比 (%)	売上高 (百万円)	構成比 (%)
	医薬営業支援サービス	1,459	55.7	1,757	66.3	1,499	69.0	981	60.2	247	59.8	240
eディテリング <sup>®</sup>	1,102	42.1	987	37.3	794	36.5	715	43.9	199	48.2	143	41.0
MR P l u s <sup>®</sup>	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	58	16.7
スポンサードWeb コンテンツ制作	260	9.9	683	25.8	638	29.4	200	12.3	29	7.0	34	9.9
その他	97	3.7	86	3.2	66	3.1	65	4.0	18	4.6	4	1.4
マーケティング調査 サービス	685	26.2	449	17.0	259	11.9	249	15.3	68	16.6	53	15.2
eリサーチ <sup>™</sup> 他	685	26.2	449	17.0	259	11.9	249	15.3	68	16.6	53	15.2
医療コンテンツサービス	472	18.1	442	16.7	415	19.1	398	24.5	97	23.6	55	15.8
CareNetTV・ メディカルCh. <sup>®</sup>	251	9.6	228	8.6	203	9.3	180	11.1	46	11.4	—	—
CareNet オンデマンド	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	12	3.5
ケアネットDVD他	221	8.5	213	8.1	212	9.8	217	13.4	50	12.2	43	12.3
合計	2,617	100.0	2,649	100.0	2,173	100.0	1,629	100.0	413	100.0	349	100.0

## (ア) 成長性の鍵となる医師会員数について

回次	第13期		第14期		第15期		第16期		第16期 第1四半期 累計期間		第17期 第1四半期 累計期間	
決算年月	平成20年3月		平成21年3月		平成22年3月		平成23年3月		平成22年6月		平成23年6月	
	前年同期比 (%)		前年同期比 (%)		前年同期比 (%)		前年同期比 (%)		前年同四半 期比(%)		前年同四半 期比(%)	
医師会員数(千人)	79	+15.4	88	+11.2	95	+8.1	100	+5.4	96	+7.0	101	+4.5

当第1四半期累計期間において、医師会員数は約5百人増加し、当第1四半期累計期間末の医師会員数は10万1千人(前年同四半期末は9万6千人)となりました。当社は、医師会員の増加が、従来の「eディテリング®」サービスの品質を高め、実施件数および売上高を伸ばす要素であると考えております。また、前期(平成23年3月期)から「eディテリング®」の次期版として開発に取り組んできた「MRPlus®」が、当第1四半期累計期間よりサービス提供を開始し売上高を計上いたしました。今後、当社は「eディテリング®」および「MRPlus®」の売上高合計が、成長を示す指標となると考えております。したがって、前期(平成23年3月期)まで下記(イ)は「eディテリング®」の成長について記載しておりましたが、当第1四半期累計期間からは、「eディテリング®」および「MRPlus®」の売上高合計を成長の視点として記載することといたしました。

## (イ) 「eディテリング®」および「MRPlus®」の売上高合計の成長について

回次	第13期		第14期		第15期		第16期		第16期 第1四半期 累計期間		第17期 第1四半期 累計期間	
決算年月	平成20年3月		平成21年3月		平成22年3月		平成23年3月		平成22年6月		平成23年6月	
	前年同期比 (%)		前年同期比 (%)		前年同期比 (%)		前年同期比 (%)		前年同四半 期比(%)		前年同四半 期比(%)	
「eディテリング®」および「MRPlus®」売上高合計(百万円)	1,102	+14.9	987	△10.4	794	△19.6	715	△9.9	199	+11.6	201	+1.4
「MRPlus®」												
売上高(百万円)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	58	—
実施企業数(社)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2	—
「eディテリング®」												
売上高(百万円)	1,102	+14.9	987	△10.4	794	△19.6	715	△9.9	199	+11.6	143	△28.0
実施件数(件) (注)	22	+15.8	14	△36.4	30	+114.3	41	+36.7	12	+100.0	12	±0
実施企業数(社)	8	—	7	△12.5	15	+114.3	13	△13.3	7	+40.0	8	+14.3

(注) 「eディテリング®」実施件数は、各期においてサービス実施を開始した件数であります。

当第1四半期累計期間においては、「eディテリング®」は、前々期(平成22年3月期)より大幅に引き下がった1件あたりの平均単価の改善交渉により、売上高の回復に注力いたしました。この売上高の回復が実現するのは、当期(平成24年3月期)下半期以降の見込みであるため、当第1四半期累計期間の「eディテリング®」売上高に大きな改善はありませんでした。「eディテリング®」は、実施件数12件(前年同四半期比±0%)と変わらないものの、売上高は143百万円(前年同四半期比28.0%減)となりました。

一方、当第1四半期累計期間からサービス提供を開始した「MRPlus®」の実施企業数は2社となり、売上高は58百万円となりました。これらの結果、「eディテリング®」および「MRPlus®」の売上高合計は201百万円となり、前年同四半期の「eディテリング®」売上高と比較し1.4%増加いたしました。今後は、「MRPlus®」の拡販に努め、売上高を伸ばしてまいります。なお、前期(平成23年3月期)まで記載していた「MRPlus®ナビゲーションボードの件数」は、今後「MRPlus®」にナビゲーションの機能を移管してため、当第1四半期累計期間から記載を省略しております。また「リピートオーダー件数」についても、「eディテリング®」を実施している企業のほとんどが継続的な顧客として定着していることから、当第1四半期累計期間から記載を省略しております。

## ③ 収益性

回次	第13期	第14期	第15期	第16期	第16期 第1四半期 累計期間	第17期 第1四半期 累計期間
決算年月	平成20年3月	平成21年3月	平成22年3月	平成23年3月	平成22年6月	平成23年6月
売上総利益率(%) (注) 1	48.2	46.0	33.9 (12.1%減)	54.0 (20.1%増)	53.6 (18.7%増)	58.1 (4.5%増)
販売費及び一般管理費 比率(%) (注) 2	32.9	38.0	40.4 (2.4%増)	77.6 (37.2%増)	69.1 (28.6%増)	86.3 (17.2%増)
営業利益または営業損失 (△) (百万円)	401 (△4.9%)	213 (△46.8%)	△140 (-)	△383 (-)	△64 (-)	△98 (-)
営業利益率(%) (注) 3	15.3	8.1	△6.5 (14.5%減)	△23.6 (17.1%減)	△15.5 (9.9%減)	△28.2 (12.7%減)

(注) 1 売上総利益率は、売上総利益を売上高で除して算出しております。

2 販売費及び一般管理費比率は、販売費及び一般管理費を売上高で除して算出しております。

3 営業利益率は、営業利益を売上高で除して算出しております。

4 表中の( ) 書きは、前年同期比であります。

当第1四半期累計期間は、売上高349百万円(前年同四半期比15.5%減)と低調に推移し、売上総利益率は58.1%(前年同四半期比4.5ポイント改善)、販売費及び一般管理費比率は86.3%(前年同四半期比17.2ポイント悪化)となり、営業損失は98百万円(前年同四半期は営業損失64百万円)、営業利益率は△28.2%(前年同四半期は△15.5%)となりました。

## ④ 健全性

回次	第13期	第14期	第15期	第16期	第16期 第1四半期 累計期間	第17期 第1四半期 累計期間
決算年月	平成20年3月	平成21年3月	平成22年3月	平成23年3月	平成22年6月	平成23年6月
総資産額(百万円)	2,832	2,870	2,286	1,823	2,176	1,681
純資産額(百万円)	2,519	2,457	1,999	1,524	1,896	1,424
自己資本比率(%)	88.9	85.6	87.3	83.4	87.0	84.5
現金及び現金同等物 (百万円)	658	689	402	500	300	272
営業活動によるキャッシ ュ・フロー(百万円)	189	293	△69	△198	△73	△221
流動比率(%) (注) 1	835.6	620.3	732.0	517.1	725.3	554.6
流動資産比率(%) (注) 2	92.5	89.3	91.7	79.7	89.6	79.1
有利子負債残高 (百万円) (注) 3	1	0	-	-	-	-

(注) 1 流動比率は、流動資産合計額を流動負債合計額で除して算出しております。

2 流動資産比率は、流動資産合計額を総資産額で除して算出しております。

3 第13期および第14期の有利子負債残高は、未経過リース料残高のみとなっております。

当第1四半期累計期間末時点での現金及び現金同等物残高272百万円、自己資本比率84.5%の水準、および有利子負債残高なしの各指標から健全性を確保していると判断しております。

一方で、当社は前々期(平成22年3月期)および前期(平成23年3月期)において、売上高減少による2期連続の営業損失、および営業活動によるキャッシュ・フローのマイナスが生じております。売上高減少の主な要因は、「eディテリング®」の販売単価の低下、「eリサーチ™」の受注の減少、および医師間症例共有サービス「RegistrySTATION®(レジストリーステーション)」を前々期(平成22年3月期)に発売中止した影響が重なったことによるものであります。この結果により、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような状況が発生しております。当社は、当該状況を解消するため、引き続き下記の対応策を進めてまいります。

## a. 新サービス導入による業績回復

前期(平成23年3月期)に準備段階であった「eディテールリング®」の次期版「MRP1us®(エムアールプラス)」、および病院向けeラーニングシステム「MALS®(マルス)」の2つのサービスを本格稼働させ、当期(平成24年3月期)には売上高の伸長による業績回復を図り、その後の中期においても、これらサービスによる利益成長を図ります。具体的には、当期(平成24年3月期)は、これらサービスの導入開始のために営業体制を強化し、営業活動に注力するとともに、導入先でのサービス満足度を高めていくための施策も並行して実施し、早期に導入実績に基づいた営業・マーケティング活動に繋げていくことに注力してまいります。なお、「MRP1us®(エムアールプラス)」においては、当第1四半期累計期間に本格稼働し、当第1四半期累計期間の売上高は58百万円となりました。また、「MALS®(マルス)」においても、当期(平成24年3月期)下半期の本格稼働に向けた施策が計画通り実施されております。

## b. 既存サービス売上高の維持、または増収

既存サービスである「eディテールリング®」、および「eリサーチ™」は、ここ数年間において売上高の減少傾向が続きました。これらのサービスは、売上総利益率の高いサービスであり、売上高の減少傾向は、営業利益に大きな影響を与えております。当期(平成24年3月期)においては、営業部門および制作部門の人員補強を行うなどの体制強化により、減少傾向であったこれらサービスの売上高の維持、または増収を図ります。なお、当該施策は計画通り実施されており、「eディテールリング®」の売上高の回復も当期(平成24年3月期)下半期以降を見込んでおります。

## ⑤キャッシュ・フローの状況

当第1四半期累計期間末における現金及び現金同等物(以下、「資金」という。)の残高は、前事業年度末と比較して228百万円減少し、272百万円(前事業年度末比45.6%減)となりました。

当第1四半期累計期間における各キャッシュ・フローの状況は次のとおりであります。

## (営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動により支出した資金は、221百万円(前年同四半期は73百万円の支出)となりました。これは、主にポイント引当金の増加19百万円、前受金の増加19百万円などによる資金の増加と、税引前四半期純損失99百万円の計上、売上債権の増加108百万円、未払金の減少51百万円などによる資金の減少との差引きによるものであります。

## (投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動により支出した資金は、4百万円(前年同四半期は28百万円の支出)となりました。これは、差入保証金の返還による収入48百万円による資金の増加と、自社利用ソフトウェア開発等による支出53百万円との差引きによるものであります。

## (財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動により支出した資金は、1百万円(前年同四半期は0百万円の支出)となりました。これは、配当金の支払いによるものであります。

## (3) 業績予想に関する定性的情報

平成24年3月期の業績予想においては、概ね予想通りに推移しており、平成23年5月12日に公表いたしました業績予想に変更はありません。



2. 四半期財務諸表  
 (1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (平成23年3月31日)	当第1四半期会計期間 (平成23年6月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	1,250,880	1,022,359
受取手形	5,715	—
売掛金	146,134	260,161
たな卸資産	※1 21,364	※1 23,284
前払費用	21,149	21,369
その他	7,806	2,543
流動資産合計	1,453,051	1,329,717
固定資産		
有形固定資産	47,302	43,715
無形固定資産	210,092	244,312
投資その他の資産	112,770	63,618
固定資産合計	370,165	351,646
資産合計	1,823,217	1,681,364
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	25,216	18,250
未払法人税等	5,215	2,284
前受金	31,972	51,688
ポイント引当金	25,658	45,373
その他	192,935	122,185
流動負債合計	280,998	239,782
固定負債		
繰延税金負債	4,792	4,592
資産除去債務	12,538	12,588
固定負債合計	17,331	17,180
負債合計	298,329	256,963
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	591,321	591,321
資本剰余金	895,884	895,884
利益剰余金	55,127	△45,359
自己株式	△20,865	△20,865
株主資本合計	1,521,467	1,420,981
新株予約権	3,419	3,419
純資産合計	1,524,887	1,424,400
負債純資産合計	1,823,217	1,681,364

(2) 四半期損益計算書  
(第1四半期累計期間)

(単位:千円)

	前第1四半期累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年6月30日)	当第1四半期累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年6月30日)
売上高	413,442	349,394
売上原価	191,782	146,412
売上総利益	221,660	202,981
販売費及び一般管理費	285,826	301,660
営業損失(△)	△64,165	△98,678
営業外収益		
受取利息	484	89
その他	305	1,206
営業外収益合計	790	1,296
営業外費用		
為替差損	—	2,104
その他	—	250
営業外費用合計	—	2,354
経常損失(△)	△63,375	△99,736
特別利益		
貸倒引当金戻入額	5	—
特別利益合計	5	—
特別損失		
固定資産除却損	536	—
早期退職費用引当金繰入額	30,832	—
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	6,989	—
特別損失合計	38,358	—
税引前四半期純損失(△)	△101,728	△99,736
法人税、住民税及び事業税	950	950
法人税等調整額	962	△200
法人税等合計	1,912	749
四半期純損失(△)	△103,640	△100,486

## (3) 四半期キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第1四半期累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年6月30日)	当第1四半期累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年6月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前四半期純損失(△)	△101,728	△99,736
減価償却費	7,166	13,294
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	6,989	—
ポイント引当金の増減額(△は減少)	—	19,714
早期退職費用引当金の増減額(△は減少)	30,832	—
受取利息及び受取配当金	△484	△89
為替差損益(△は益)	—	2,004
売上債権の増減額(△は増加)	103,156	△108,310
たな卸資産の増減額(△は増加)	3,259	△1,920
仕入債務の増減額(△は減少)	△72,822	△6,965
未払金の増減額(△は減少)	△6,699	△51,187
未払消費税等の増減額(△は減少)	3,331	1,857
未払費用の増減額(△は減少)	△10,533	△19,100
前受金の増減額(△は減少)	24,292	19,715
その他	△56,171	13,123
小計	△69,409	△217,600
法人税等の支払額	△3,800	△3,483
営業活動によるキャッシュ・フロー	△73,209	△221,083
投資活動によるキャッシュ・フロー		
無形固定資産の取得による支出	△28,222	△53,344
差入保証金の回収による収入	—	48,957
投資活動によるキャッシュ・フロー	△28,222	△4,386
財務活動によるキャッシュ・フロー		
配当金の支払額	△123	△1,046
財務活動によるキャッシュ・フロー	△123	△1,046
現金及び現金同等物に係る換算差額	—	△2,004
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△101,555	△228,521
現金及び現金同等物の期首残高	402,521	500,880
現金及び現金同等物の四半期末残高	※1 300,966	※1 272,359

## (4) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

## (5) セグメント情報等

(セグメント情報)

## 1 前第1四半期累計期間(自平成22年4月1日至平成22年6月30日)

## (1) 報告セグメントごとの売上高および利益または損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期 損益計算書 計上額 (注) 2
	医薬営業 支援サービ ス	マーケテ ィング 調査サー ビス	医療コン テンツ サービス	計		
売上高						
外部顧客への売上高	247,050	68,737	97,654	413,442	—	413,442
セグメント間の 内部売上高または 振替高	—	—	—	—	—	—
計	247,050	68,737	97,654	413,442	—	413,442
セグメント利益	45,531	37,268	2,495	85,295	△149,461	△64,165

(注) 1 セグメント利益の調整額△149,461千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用(報告セグメントに帰属しない販売費及び一般管理費)であります。

2 セグメント利益は、四半期損益計算書の営業損失と調整を行っております。

## (2) 報告セグメントごとの固定資産の減損損失またはのれん等に関する情報

該当事項はありません。

## 2 当第1四半期累計期間(自平成23年4月1日至平成23年6月30日)

## (1) 報告セグメントごとの売上高および利益または損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期 損益計算書 計上額 (注) 2
	医薬営業 支援サービ ス	マーケテ ィング 調査サー ビス	医療コン テンツ サービス	計		
売上高						
外部顧客への売上高	240,891	53,183	55,319	349,394	—	349,394
セグメント間の 内部売上高または 振替高	—	—	—	—	—	—
計	240,891	53,183	55,319	349,394	—	349,394
セグメント利益ま たは損失(△)	73,705	28,894	△28,256	74,343	△173,021	△98,678

(注) 1 セグメント利益の調整額△173,021千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用(報告セグメントに帰属しない販売費及び一般管理費)であります。

2 セグメント利益または損失は、四半期損益計算書の営業損失と調整を行っております。

## (2) 報告セグメントごとの固定資産の減損損失またはのれん等に関する情報

該当事項はありません。

- (6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記  
該当事項はありません。

### 3. 補足情報

#### 注記事項

(四半期貸借対照表関係)

前事業年度 (平成23年3月31日)	当第1四半期会計期間 (平成23年6月30日)
※1 たな卸資産の内訳は、次のとおりであります。 (千円)	※1 たな卸資産の内訳は、次のとおりであります。 (千円)
製品 8,558	製品 7,755
仕掛品 12,616	仕掛品 15,078
貯蔵品 190	貯蔵品 451

(四半期キャッシュ・フロー計算書関係)

前第1四半期累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年6月30日)	当第1四半期累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年6月30日)
※1 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係 (平成22年6月30日現在) (千円)	※1 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係 (平成23年6月30日現在) (千円)
現金及び預金勘定 1,600,966	現金及び預金勘定 1,022,359
預金期間が3カ月を超える 定期預金 $\Delta$ 1,300,000	預金期間が3カ月を超える 定期預金 $\Delta$ 750,000
現金及び現金同等物 300,966	現金及び現金同等物 272,359